

聖書日課 『からし種』 2024.5.5-5.12

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>5月5日 (日)</p> <p>箴言 18章</p> | <p>「友の振りをする友もあり／兄弟よりも愛し、親密になる人もある」(24節)。聖書における至高の友情はヨナタンとダビデのものだろう。ヨナタンはサウルを父として尊敬しつつ、神の器として選ばれたダビデに誠実を尽くした。真の友情は、主なる神への信仰において成立するのだろう。逆に、神への畏れを欠いた「友情」は残念ながら「見せかけ」に終わる。</p> |
| <p>6日 (月)</p> <p>箴言 19章</p> | <p>「人の心には多くの計らいがある。主の御旨のみが実現する」(21節)。自分の心にあるさまざまな計画や願いを主の前に差し出し、御旨を尋ねる「一呼吸」を大切にできたらと思う。自分には「正しく」「切実」に見えても、主の御旨は「異なる」ことがある。「主の祈り」でも「御心の天になるごとく地の上になりますように」の祈りが、日々の糧に先だって置かれているように。</p> |
| <p>7日 (火)</p> <p>箴言 20章</p> | <p>「悪に報いたい、と言ってはならない。主に望みをおけ、主があなたを救ってくださる」(22節)。聖書は正義をもって相手を屈服させる「強さ」ではなく、主を待ち望む「雄々しさ、心の強さ」を勧める(詩編 27:14)。「わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ 16:33)と言われた十字架の主は「悪」を裁きつつ「悪人」を最後まで愛し通された。この主にこそ「望み」がある。</p> |
| <p>8日 (水)</p> <p>箴言 21章</p> | <p>「弱い人の叫びに耳を閉ざす者は／自分が呼び求める時が来ても答えは得られない」(13節)、「欲望は絶えることなく欲し続ける。神に従う人は与え、惜しむことはない」(26節)。自分の手にあるものを神の働きに献げることは何と難しいことだろう。ザアカイが主イエスの来訪を心から喜び献げたように、十字架の主の恵みへの応答をあらわすことができるように。</p> |

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.5.5-5.12

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>9日 (木)</p> <p>箴言 22章</p> | <p>「金持ちと貧乏な人が出会う。主はそのどちらも造られた(2節)。「金持ち」とは誰のことで、「貧乏な人」とはどのような人だろう。誰がそれを決めるのか。主イエスは、着ているもの、持っているものに左右されることなく、神が愛し、造られた「人」と出会っていかれた。「見えるもの」ではなく、「見えないもの」に目を注ぐ出会いを大切にする者とされたい。</p> |
| <p>10日 (金)</p> <p>箴言 23章</p> | <p>「みなしごの畑を侵してはならない。彼らを贖う神は強く／彼らに代わってあなたと争われるであろう」(10-11節)。親を亡くした子どもから奪い取り、年老いた者からだまし取る強欲は昔も今も多くの悲しみを造りだしている。しかし、だまされ、奪い取られた者を贖う方は生きておられる。この方が約束される「未来と希望」(18節)を見上げていく信仰をいただきたい。</p> |
| <p>11日 (土)</p> <p>箴言 24章</p> | <p>「魂にとって知恵は美味だと知れ。それを見いだすなら、確かに未来はある」(14節)、「神に従う人は七度倒れても起き上がる」(16節)。「主を畏れる知恵」をいただく時、私たちの筋肉は柔軟になり、骨は潤される(3:8)。困難の中に主の幸いを見出す「美味」を味わう者とされる。「七度」も倒れるのは辛いけれど、主の約束される「未来」に励まされていきたい。</p> |
| <p>12日 (日)</p> <p>箴言 25章</p> | <p>「時宜にかなって語られる言葉は／銀細工に付けられた金のりんご。聞き分ける耳に与えられる賢い懲らしめは／金の輪、純金の飾り」(11-12節)。適切に語る人・聞く人そのものよりも、そういう人同士の「関係」こそが金銀細工のように美しいのだろう。「人が独りでいるのは良くない(創2:18)」のは、私たちの関係の中に神の国が現れるからではないか。</p> |